雜談集

上

911.3
ザ
上

雑談集

一伏見殿と和歌滑稽をなさせられ
ける芭蕉翁の名句いつまでも
忘れがたく思はれ侍りし
を大津尚白亭にて
辛崎の松は花より朧にて
とおもはれるにて一句の風体言外に味
あり人々もいまだ見ぬ

作りかへられたるなり中古の頑(ケンナリ)他なりて是非の境を知らざる人さしおいて其句誠に誹諧の骨髄にあたらざる怪なり切字なしすべて名人の格的なるべきの姿なる句

と中ごろのやと不審(シン)しける巻中

哉とあるの句をあるべきの事を

論ずるなるべきを句を句なりとおもふ

中古

ちかごろ人多くこれを摩(ス)られて

外ちらを形徹(テツシ)しぐさの作る句

中の句他なる的當なるべきを論ずる再

義なる中速作れば一句の問答なる作てを拙

所なり但し予が方寸此上なる家形

いまだ作法やまず入れば弱きを先て

初めの句根のなるべきを眼お

なるべきなり

一ぬ形ふこの入る宗盛八生涯(シヤウガイ)をかるんて

隱岐国の栗乃門にて車馬乃
喧かましき近衛殿　宇治へ道
遥の所にあるものとて多人にて
ある痩男にて老体にて色黑元
なる一人のほの色のすぐれたる
みるさまを
宗鑑ひるをみやがらて
と作るにおかしく則
のまんにうれしき夏の沢あり

とつくるつるとけるまゆとあり
元改上人の隱色作りは宗鑑の作を入
へるを此ワキ凡作より入るる心ありと
ものぐるしく作るを一句一生の法を無
けるあり所さみを物なれと畫寢
乃せるのおもひ合せるを以て思
ゆるしへるをもしほの山路の草庵を
ものを古路と作衣をのしてはよ
ひ所を去る作なる山の天狗乃

成て九余年の間毛月のあり所なと
八幡山稀のあり所をはかるひとり人
毛をもつて涼（シラケ）まかて
角（カド）あり人をはつしとのみならば
ちをあらしてそれをもあらしをみ
てらしといつ人まれ〳〵多し
一貞享乙丑年九月十四日の夜の夢年齢
四十あまりなるほうしさてあらはれ包
首をかけ菅笠をかぶりて路の下

乞なりびの松をこんあけひまく仲のさ
きをりをはかるを手をくさ拍子（ハクシ）の音
つくられを社人立さらさて鄙（ミヤビ）か
所にの新をむさ屏風といつのを
見るさるをけるをはかるをはかる
あるのの信をよりさ面をのさる
さ屏を社人今ちてくあをを先
なる時みりてのを一句つくま
はをゆ仕あとつ金あれ

[illegible]

[illegible]

松原のすがまを色こそかるゝ時なれと

[illegible]

[illegible]

十五日の夜深川の八幡宮に詣ずる

[illegible]

[illegible]

芭蕉庵をたづねしに[illegible]

[illegible]

[illegible]

一荷分集にのこす辞世とあり　守武

散花を南無阿弥陀仏と夕べかな

[illegible]集のあつまりて秋の辞世とて何

[illegible]境をまもるべきや只鳴呼と歎息

[illegible]

一先年上京の時挑灯　李吟

目をまやかしたる花ちるれば庭もと

なんどいつもみくもを通音の句く

一五十句百句とけつて奉北野梵灯より始

一西岸寺任口上人のうんさく二牧

茅はしく刈ぬ若の花盛

蓼醋ともちぬ原をうるれん哉

伏見より元行きの京へ出てて

稲荷山あるくうぐれてうす

うよ茅しうちもあいやとてかるるく男

はうとうらせうるよ祈人のひろひての

花の手れ藪根植みてもりぬ手

ひろへうこうひもりうるもうれ(ひ)て神を色

ゆうれ短尺の翠(デウシ)紙の上よ男山正八幡

大菩薩と仇書せ(ば)ぬ(ぬ)ぬ(ぬ)ぬ(ぬ)ぬ(ぬ)ぬ(ぬ)ぬ(ぬ)

内をんけうやぶ(ぬ)植手をうみて

祈うん只神名のうくしうあ

猿けくあんをわ

一さみだれけるあるものや勢田のそ
はくるしの名ちるの名にはよりて矢矧
のはしもやはきるや長橋の天ちかる
粉多一橋ちかくへうしとと絶せり
京大津ちかくはなるるに去来ら
湖のあるまりそうさなる色
云へるなるに湖鏡一面ふくまりて水
接天とみしか八景をこせ(セツス)ばかりに
橋をふけるる時と云所といひ一句ふ

ちなる景物のうつるる場をいひてはあ
るをやはり文章のみものあづくれと云へ
聲(ニヤ)者のうくひあへし
一句小ゑ物語のうさしなる三句を
みるあいつれとやはりに
伊勢や墳ひとり泣月の夜や
いつの句をこのあるよ定らとやくれど弦
きくこ一句人目ふくるびはれるも其
夜の月の天心ちるるふくの去るる

ゆかりとなりて仕ひ奉れる友吉うさしし所の月八四角なるものうつるといふるハあるさ世ゝ自ら仕ふ者ハ
終時ゝ[illegible]ても新月ゝ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]

一[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

暑ゝも寒しとハ俊成ゝの雑談し
出ゝ一迚なりけ[illegible]の事 自悦

一あ[illegible]ゝ桃のけ[illegible]ゝ人心ゝ[illegible]ゝ安住
[illegible]ゝ[illegible]ゝ上世の[illegible]
[illegible]ゝ門主側なる[illegible]ゝ[illegible]ゝ山の氣
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
定[illegible]日ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
大師の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]の家[illegible]年[illegible]の[illegible]に[illegible]
蓋の右托方の種うけ[illegible]行松はさ[illegible]
[illegible]をゆくはるよかろびられて
[illegible]
焼うけて[illegible]のさ[illegible]　角
入れとれのしほ[illegible]門を鬼帰のよ[illegible]
[illegible]鳴物とどめ[illegible]
[illegible]日[illegible]
[illegible]と佛身非情草木[illegible]
[illegible]でのみ[illegible]と愁眉[illegible]

[illegible]
具[illegible]の二月[illegible]山さ[illegible]　角
一真[illegible]
小[illegible]松[illegible]山[illegible]　角
香奠[illegible]茶[illegible]桜[illegible]　普船
[illegible]日を一目[illegible]　挙白
[illegible]
物[illegible]投[illegible]掛山幕　亀翁
[illegible]小[illegible]情[illegible]　水花

嵐蘭り世を田中宗支と云し人の孫にて
うの宗支の武功をよく聞て河内守殿
和州郡山の田支まさ仕り中るなり春
松念寺様守の為老をなり仕られど
孫子仕て河内守殿土八月の上旬
ひゃれ田の畦にて死へしとて家訓
として四つ切代懐舊　嵐蘭
死を家　秋梅子出小田の雲
一加賀金沢の一矣ハ子孫の御隠居十五老
蒙屋敷にて思ひ立ひ子と人ごと息
もさぶ子ひ呼和のみち色を後子ハ
と勇いてあんなど氣ぢひ子ぬ死
も物なくして五子仙寿ものれ
筆子ぬあなるひ子ぬなるを呼子

ぬ脚の松宿とんとて遠く心
をとびとを年にて重労ぬ
明れ令のさいもひとを辺
の千三間のあり子の御隠居十五老
蒙屋敷にて思ひ立ひ子と人ごと息
もさぶ子ひ呼和のみち色を後子ハ
と勇いてあんなど氣ぢひ子ぬ死
も物なくして五子仙寿ものれ
筆子ぬあなるひ子ぬなるを呼子

[illegible]

[illegible]

心[illegible]雪[illegible]西の[illegible]き一笑

[illegible]正念[illegible]翠[illegible]年[illegible]

の白根をもるる色[illegible]松[illegible]

餘哀をとゝ[illegible]

塚もこゝ[illegible]我伝[illegible]色[illegible]

常住の蓮をあり[illegible]ちの風　何丸

我[illegible]帰せ[illegible]

月すゝ[illegible]魂[illegible]牧童

つゝ帰さ[illegible]伝[illegible]塚[illegible]雲口

西[illegible]童鳥跡[illegible]遊女[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

それをまぶしくるまをかくまて
あつくはあつくやあれ風の森なるとう
りの池水をとはるるのほくりる
茶碗てくんさくを付て

とのこうー茶歌の事書の跡鳥跡
七十七もあるーやうーをとけ
ちなん一向のさはいやー九人果ち生れ
ぬるーちーふーちーをーまーをけるも
讃佛奈の因なるー

一山川といふ也称七まるあれもいすぶ新
ちる見合せあく志他なくーコ一癖なしも
それを乃者の文故も拾ふーいとがよ物外
彼花つみといふ集ハやもひて清書なるむ又
俗物ようひくりしりもいぶなと問ふ七ハ古
詩古学の孫を叶へるも集ものよりおる具
力色孫て此集よくげあらといへて勤めて困ぶ
それ一ちより家宿とも四ぶるうちとを打
の文緒ハるーひくりとい〳〵同ーく志あり

凧といつもうけゝも　君の門　山川

火燵くゞる也　起臥乃楽　角

傘もらうて返さぬあるゝし　溪石

出所を近く萩しこし　山川

傀儡の扇子なみけるかはの月　以し

言ひけりのもてなし狐うらく　仝

一読本所見といへる重高のちかや装束つ

くろひて鏡へ向ふなむといふは

顔くり似ぬ姿なるらもこてかし　宝生　沾蓬

一家を賣るかも郷なとハ盛衰の至誠を

よまれけり負物いさゝか水ぬ迄ハ風雅とそ

申へ栖ちうされぬ白炭やかねし　忠知

霜月や心あるなよ男の就法師と

辞世して腹切ける比にてせめてなる辞世

ゆゑをみんなしこの法味ちなきへ忠知が子

もうえへたし人も惜み見れはしりぬ十年

東の瀧路のゆゑを志れなりの稿を

元日や何ゆへとへん辞任しかな　忠知

双六なる世のうらいろんやあの月あるいおと
ゆうとうと海子坊句仏の世のハ行のうと
ろんとうひ宮ゆ死活の境未来記し
家を宅秋めくといいうとり春澄
皆人を蜀を火ゆというとうり同
を自暴自棄の足あるて三へう句も教報
しんの句わゆうで杉廃れるハいう
ゆうとれうり西木のううなとうと三れ
世ゆうとひける地獄の罪人ゆうゆ

をうのうれうもひうばかうりくいへを名
利の境ゆ落付れうを角うをこの名のうう海
ゆうけうも部屋の信をうをへうば
一雨見月　ゆうゆの人をつけて月る
ゆうゆうれる松風ゆうを
名月や夜の上ゆ雲の彩　用
難問　花影乗月上欄干　仏句の思い合ゆる
時ハ夜の上の松彩を時ゆ仏なゆば長の
夜の涼しい郷ゆもかのゆうう　答を肩
ゆうゆう毛欄干の上ルゆう

かはらぬは松の黒さよ月夜かな　涌

光廣ては かの月は嵐に底なき心をよむ事也
帰るさをもよみ出しは春月の本
意八朧(ボウ)しくもうけとる躰なきこと候か

於大津義仲菴

三井寺の門たゝかばやけふの月　翁

其後も思ひ合侍るものも名月ヲ前に月
てみるおりひかもなく新くの口質(クセ)に切字を
入つゝ名句を紛らし侍るもおかし

名月や海のひかりのかくし海　湖逸
唐(カラ)舟のはらりあまは月見かな　仙化
月は秋なおいさお合へ居の暮　亀翁
海ちる雲霧中をひくしほの月　普船
名月に遊のうしみる平淋か　未陌
そのの月椽(エン)にありける執筆か　遠水

一知者仁者の山水の楽(ミカニ)そ心のうつるところ
いまの道を見ちしかも花の芳野山ともいへ
先(サキ)の月みのし堂の色にかしの音　貞室

いさの淵を嵯峨の鹿こひよ鳴る　同

[illegible]田川に百[illegible]なる幾巴を負

[illegible]を[illegible]角を[illegible]しの[illegible]も賞

深[illegible]ちし[illegible]短尺を買[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]山藁塘[illegible]

倩錢の淵[illegible]つまね氷の水　貞室

[illegible]

[illegible]

一秋炮と云名の[illegible]句[illegible]

おもしろ付[illegible]て案[illegible]大巓和尚の百

[illegible]　人間辜負悲猿境　辛苦管中多少淚

[illegible]の山[illegible]猟師の猿をみ

つけて秋炮を元上[illegible]哀猿斷腸乃色を

出て呼ひ[illegible]即興の詩なり[illegible]

[illegible]辛苦管[illegible]則秋炮[illegible]

[illegible]自由の[illegible]

[illegible]又[illegible]八鉢と云名の面白[illegible]

十七字のゆるみてくひかけとて初懐帋
餅作るなりの廣蓋をもち合せ と
これほとに八句作なれとも鉄炮と云てのさる作
手をのまへのしくやされたる句ほと作りよくて捌
すくなりの八なし定家への花桜みちを
ほゝゑみしもありくしてと付し
一 いせの浜の貝とるあまの子舟まのせてい
となふところせて出るしさしてうつおま文て復
ぬまでその子ちに乳をもとめて泣声の産せし

抱るみやかてうちみてかうき息をも作るあへす艫
みのほとゝりそて乳房を人てちとくみかる此も
極まさとに任心の發動せる所なれとも一句の
云あわてものゝ情ゝと其の難儀を取り
それを前句にあらく
うたゝ艸をつゝ日て抱さるものゝりとゝいふ
浜の子なかなし舟なり乳をのむ と付
これらも三才圖彙の絵をとみるもうみてきれえ
一句の感賞なりともひくれわかまくり付るは抽出

時の宜しきをしらしめん為也しかれば風雅は
文字なきは俳諧ゆゑに其ことはりを
付合せしれかれて摸因の章のいはれし造営なる
ましるまでも其心も残さむる如きに
其をりて皆俳諧の眼を付たしハ其の目と云
五香仙ぞしひらきけり
伊勢にむかふ了々房年遷宮の良材ともなりて
大工達のかしこき新也残の
此のよし記しけり　角

なかれとはいへる押なひなど傍述言　翁
俳諧に新古なしといへども唯情のつきざるハ
世のつねに見あきたる中にもまた又情の
厚きハいふまでも心もさらにれども作者の風より思ひ
合あるゆへ時に新しく不易の功あるもの也
古人の心に今にもみゆるハ今年の句
祖母独つれづれの折からつれづれ心も心
ものふしあへる数新なるも作文かさね作り
なかれとて旅着てゆくといへる心ありしと嵐雪

[illegible]

なんるもの 揚梅の實 しのゝめ 口 遊翁

四十[illegible] 蘭

[illegible] 暮 東順

戒 [illegible]

錦木や色のをりの老男 是吉

力なや麻刈あとのなきれ風 越人

惜よ師走の菊の [illegible] 露沾

老の身の涙[illegible]や [illegible] 岩翁

紙子きて [illegible] 三十[illegible] 角

去[illegible]

百夜[illegible] 雪のあれ

[illegible] 忍の字[illegible] 自讃

[illegible] 猿蓑の [illegible]

[illegible]

うお世の[illegible] 皆小町

[illegible]

日この変よりけ時のゑる人腹にしつけしたるを
蕎の裏痛につきそれ境界よりあへる疝瘕
を孫てうかゝれんか孫と云付句ハ手よ血氣に
合ぬ道を句のかりも付くしけれ縁ちよ和比
口瘡いりよ愈しぬへしよ
一なるを付句とのかゝぐのハきかなてわ叔あをにこくし
尊紙を扇にもつくよ　廿ぐれ　信徳
是ハ盃ほりなるりなどさるに付句としりと付合
のかきなるを琢とかりよ入るハ未練なりける

何舟や　みよりくなく　若のゑれ　亀翁
これを此ゑる道よ付合の句かなるを心一句よ優なりけ比
なる句をおかれしけしや　かりてるみかゝれ舟工夫
よ深すし響あかりし觀向よくはぬる人かすへて
なる句ぬへし　沢系なしよ人思ひなら多し此
比仮達ろ多子此よりなさる例のなる句よもとへ一
句をえんよ比れ　早くなりぬる
各月ふく宵　此ゆく　ふうもあうん　德
ゆよりんのきを世ゆ人の世中をいへる觀念ろ是ハ

今年就中腸先断と白氏の筆を悲しみける
人のあはれを思ひて作る風の花の句なるべし
藤ヶ連歌は昼の比ならせし句をとりそへて歌によむ
て吟し返してこそ句のあやも御かはりし心を
るあひはさしも見えずあるは陰氣陽氣の間に
句の浮沈あるよしなし雜子は陽の字をも喜
陰の字を怒と訓もしき氣のさはりあるべし

夜

九ならひ　新ても月のしも七ツかな　翁

新しおもひあはれや嵐に身ひらかれん　角

旦

新しき心もしきなかにある　仙化

七くさやあらたにうらし乾鳥　角

昼

鴬も雨や青山も晴て昼下り　粛山

白雨の日まはりとくもりのまゝ　揚水

暮

やり羽子も大人の日暮かな　亀翁

目も覚ともれなき梅の木曲かな　柏舟

物おもひへとも遊あそびしよりはとよなれば夕色く
の思ひせみて哀れし新てさま歌まるをのをもしを
あはれなるよしも乾鳥心の動静によりて句をも

の新蕊をはつきぬるを山氏の面白

小男鹿や ほろろ声なり 光流 角

とゝ ゆる 百里の猿 ゆしの木曽

水の秋を ゆるるも 見て八面白

やまを ゆ 樵の水 ゆ 耳みて

笑 ゆ 世 ゆ 支を 欲

歩べて景 ゆ 情 ゆ 情を ゆ 梅

景を尋ぬ ゆ 人の ゆ 国土を ゆ 八

あなの ゆ 心の ゆ

一發句付句 ゆ 日の ゆ

歳扇 ゆ 名を ゆ 作者の名 ゆ

あ ゆ 一斑を立 ゆ 其名 ゆ 定 ゆ 只

持扇の ゆ 名を ゆ 付 ゆ 句の

ゆ 句 ゆ

大 ゆ の月を ゆ 七十二 任口 西岸寺

ゆ 句 ゆ 主 ゆ 伊丹の

紫且帳 ゆ ゆ

うゑのまゝ作の格なをつゝまし荷今
作なるを色元合せてと業ならば古歌をとのま
きしらしく成て毎句よハかゝれあらくやまず
沖春の藪のゝよりをるかとも氣を付らるゝ不
ゝつよ作意をゝれも文氣をちゞめて文
ゝを求めて新しなゝあゆゝ己レ合意
りと人の中ゝ白ゝ定れ乃
のハけれゝ稀なるハ恐迷多
一自性といの新

安心の信ゝ
或信難ゝ云安心の上ゝ悲ゝかな先社
のくれゝ百叶と。ゝハ休め安ゝ人
恐ゝ云る句なれ物我（モツカ）のゝ天地一己の
自性を元句ゝ花れ月雪ゝ風のゝり
姿の心ゝ下ゝ新ゝ句ゝ格ゝ信の
心ゝ郷信の見ゝ迷
悟ゝ理ゝ僧団口
一なゝ人稲ゝ

中ノ大黒殿をいとめとせと桜ひろう送る迄
を詠て桜の口ぬく　小槌なる　角
一ひ月三日の晩巴山り多ゆ衆（シウノ）鼠懐（フトコロ）ゆを沖る
川つ迄て松をくハゆる　鼠り形　仝
一吐比落雁乃歌の〜茶屋る合　法徳判
卅一枝ゑ〜色もおちかト　兎翁
庭ゑの卯（カイ）〜みて〜落雁ト　角
雑をもあ時とあをて持ゆ歌ゑ乃歌
合せて穿（セレ）良ゆをあ時ゆく叶へ迄ゑの歌を

ゑ弱と弱とゆるゆかゑ宮ゑ乃ゆと乱向ゆ
狂へゑ所ゑ弓ゑ赤練ゆ沙のゑ東のゆゑ弱
鳴〜ゑ沙の明ゆ迄も全郭の形容〜〜庫な
吉向なる　木兎（ツク）乃ゆ　山房ゑ乃　子英
茶の毛ゆ　蛮眉（ホシロ）ゑを飾ゆト　柴雫
鵙なゆ〜ゆゑゑむ　抽乃所　野水（尾刀）
一ゑ弱ゑ弱ゑ寄て〜ゆゆ〜ゑ秋のゑ乃
付合ゑゑかゑ〜歌思ゑ付ゑ先ゑを付て
ゑれゆゑ〜かの紀（キカウ）州の年〜

[illegible] 指[illegible] 肅山
[illegible] 自然[illegible]
[illegible] 亟 不 梅翁
[illegible]
石菖[illegible] 角
雲[illegible]
自[illegible]の碁石[illegible] 菊の[illegible] 角
[illegible]

今[illegible]部諸の正風[illegible]心の上[illegible]功を
[illegible]
是[illegible]
[illegible]行形[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
人の[illegible]
[illegible]其[illegible]
重形立圓 宗因一句[illegible]

時代蒔絵の型地のそむ秘蔵せる文書と
下地麻れ念の入ざるハ元やすく売り今
何の用もなく古時の仏者供養を思て
念を入て一業せし千歳の宝も至宝し時の用
ゆるしんをして執向をあるみてをはの人今
もち侍せは 食ちなひ叶ずして合ぶるを
さへとらばし思ひを元やすきを金紙せ
彩りを筆を以て心の色をかたちを
形方寸の器ものを重大事なるを

一岩翁父子ひとり大山捜島ありて
心をしめとなるを人をたらしめの氣
色をもよほきれく雁の皮つもりて親子
ものの一つをとりて人るをとの賜ひを
真ありなんをぐしのうひもしの阪
さ城他をよやと藤びくれる旅と
度をくくもくれ鈴森を
夜のをうり日数ひとつ六日なんも数
をのをの毎月系ひとりくれ尚も

[illegible]

品川

氣晴[illegible]品川海[illegible]月 [illegible]

八丁[illegible]出船も[illegible]海 [illegible]

品川も連[illegible]鳥の聲 [illegible]角

[illegible]

初茸[illegible]宿綾[illegible] [illegible]水

[illegible]瘦[illegible] [illegible]州

狸谷

[illegible]月[illegible]

[illegible]

稲塚[illegible]田守[illegible] [illegible]角

[illegible]

宿[illegible]東[illegible]月 [illegible]

[illegible]

[illegible]鳥[illegible]宿[illegible] [illegible]

[illegible]蓮華 [illegible]中

田村川

[illegible]二[illegible] [illegible]

[illegible]

追分ハ鮎のよるみや石の音　横川

市子

かたるもものもをくるる高滝　きるト

立杉の筆や所のメアラレ　岩倉

伊勢原

映稲田の縄はるる本通り　遠水

横手もさなえしの蕎麦畑　寸角

御向変

色うくめ所むる松の日影　岩倉

柿責やおもひ松の下やすり　高角

生栗を握りつかる山所ト　具角

大山

麻やせて俳人犬の毛垂ト　素水

勝押やうる岩根ムスムもち　寸角

石蔵　山義　玉石千束洞
門遠　乾川一軒宗

ちるや雪ふる下る信の形　乾角

呑水も高水の沢山ト　耳水

あるけ茶瓶やさて苦の前　寸角

[illegible]

二開茶屋

[illegible] 木槿垣　亀翁

白[illegible]の尾髪[illegible]　キ角

[illegible]

相撲[illegible]　亀翁

[illegible]月を[illegible]　未陌

七星濱

新酒[illegible]の上　亀翁

由井濱

名月や海を[illegible]　岩翁

[illegible]一の華表や波の音　キ角

雪の下[illegible]

[illegible]寒し[illegible]を焼く里の煙　亀翁

[illegible]宿の庭子や茶の[illegible]仕　キ角

二つ[illegible]場[illegible]の花の面　岩翁

[illegible]の炉[illegible]の[illegible]の声　横几

[illegible]岡　奉納

其幹や梅香うちみな千枝の花　亀翁

草踏て梅人見山の日ぬくし　天巾

松岡

此丘所の梅樹を惜る花の雪　千蕉

ゆくよ定めぬ小舟よ

梅の子を柘榴こぼれて勝れ上　岩翁

雛山ずくる花

りんたも刈田乃松の千刻ぶ　仝

稲塚よ言ひちらよにのぶ　横几

月次俳諧文通見聞記

平地や如走まつのなりあ　臺所　枳風

あるるや歩るもゆるるもゆるる花を　岩翁

あさつまもそるつる清よ白根うか　同

樂人やいつまてのこる春の孔　遠水

摘ちるもえるよひまぶ根芹ぶ　亀翁

亦ちるや一点の梅のんめれもお　荷兮

梅の点てせてハ刻む芹苦ぶ　如春

手ふるひよ雪間の雉のうるぶ　徹士

白奥や　漁翁う歯ゑ　ハあひまあ　東以
青海苔や　ほよ　ほ　磯別れ　天神
しらとよ　染もな　指柳　春水
出のハとよ　通り名付る　女う　岩翁
苔や　藤ゑ　拾る　あつ　鉄枝
ゑ　ひ　の　晩　せ　曲水
うひすよ　あ　蕃　其角
ほ　ほ　き　東　華　キ菊
水面　ほ　う　邪　遠水

ゑ　ひ　ゑ　ゑ　金屏風　音舩
尋　二句
梅木　の亭　ゑ　花いす　其角
よき　大　代梅木　の　揚水
祝　や　苗代　叶　ま　仙化
一　ま　一　ま　麥　春水
屋　て　日　花　横几
山　り　ま　自　仙化
ま　ま　門　ま　枳風

[illegible]大や むくひちある 糸さくら 尺艸
やはらを花見のつゝみや お撫さり 嵐蘭
遅き[illegible]の[illegible]つ遅桜 山川
紙屑や所〳〵 おそ[illegible] 柴軍
車[illegible]花見を[illegible]東山 キ角
[illegible]の師を車[illegible]花の児 嵐雪
我目[illegible]山の桜哉 翠柚
出[illegible]の間や[illegible]の時 浮萍

[illegible]紙
いつ[illegible]拾[illegible]人乃成 露沾
[illegible]なで[illegible]遅さ[illegible]衣[illegible] 旦水
不断着[illegible]衣更 キ角
引[illegible]思[illegible]車[illegible] 横儿
此雨[illegible]翠柚
桜 花 [illegible] 仙化
六阿[illegible]陀[illegible] キ角
上り場[illegible]祭[illegible]や 角田川 キ角

青麦の穂にて昼なる鶏の声　治徳

青梅やをのう空（ウツホ）よ落るまて　岩泉

なりなる為ハ鳥のなくなる為ハ　普船

ちらされつ是なる匂（ツバー）を色ふかく　キ用

さらされるむすひ分り縄笹　キ為

洒落堂　頼破

なりなる為やを紙へぎる為の祝　翁

箱根峠たてりまてる地へ

裏人へ廿貫目乃あつさ哉　紫雪

しらくりの心なり涼み家　治徳

此松なりの人に風なり夏涼　キ用

ま日を氣薄なるなる暑さ哉　蓬仙（いせ）

白雨やなの黒り弱のつや　普船

やなりなる日は蟬なる曇哉　揚水

帷子に為ハ女むき　岩翁

氣舟としるむる為ハ　仏

紀進　祭なりの牛の足　幽也

番付をうるも為のきほ哉　キ用

[illegible]　角豆　亀翁
[illegible]　雨あり　[illegible]童
石垣　[illegible]　去来

[illegible]

[illegible]　[illegible]　是吉
[illegible]井戸の[illegible]あひより　炼絰　普船
いなつるま　国の[illegible]　砂花

霊棚の[illegible]　其由
[illegible]　[illegible]　青枫
[illegible]　唐粕の壺の中なる小松　[illegible]
[illegible]　探泉
[illegible]　[illegible]　幸水
[illegible]　[illegible]　史邦
[illegible]　青楓
[illegible]　[illegible]　弥頑

名月や雲もゆるぐ岩の影　巴山

弱竹之久遠坊より小行義ゆり　正秀

本多孫左衛門　あこや丸出て

めぐりやゆ山を離れて星の秋　百里

ながさぬ小田もしめ楽山ふか　金峯

茂穂とふはけてその白餐ふ　樂宇

貝殻の紅さくらの

赤貝ひとるるな庭のきりぎす　揚水

渋柿ゆ見えて除し枝ふ　兎株

華厳の滝にのぼるの春さくら　金峯

さつ耳のうつり移る月影ふ　治蓬

毛子

ちく菊の四身ふ出小袖ふ　溪石

ぬきうしの重ふ出ふ色の　鳴雪

氣をうけて天を征秋の夕ふ　松下

嵐強いたく折れ秋の蕾　普船

除出を人のうつ毎ふ　九十

鉦鼓やうつもゆ蛍の脊　水刀

[illegible]の中より[illegible]茄子[illegible]　さの一山

[illegible]の来をなすんるやなの月　仙化

はくよ[illegible]まるやなの月　キ有

[illegible]

[illegible]　撒七

[illegible]酒のうん

とま来の白文亜[illegible]

[illegible]雨くる酔やのこうして村の心　キ有

[illegible]

[illegible]　裏油

[illegible]社れ溢[illegible]

一[illegible]の中[illegible]　採泉

[illegible]隣[illegible]る傘の音　嵐蘭

[illegible]　彫窠

[illegible]川や幾のすゐる[illegible]原　キ有

[illegible]　沙花

[illegible]殿の威[illegible]　亀翁

川筋の遠くを曲る[illegible]　岩泉

風[illegible]優[illegible]月[illegible]　三翁

[illegible]のすを[illegible]村[illegible]　蘭風

百義仲菴を出て[illegible]

[illegible] 北村

菖の葉の[illegible] 翁

[illegible]の氣を鼻の[illegible]こむ[illegible] 春水

思ひ[illegible]脚[illegible]る火燈哉 一澄

嘲て火燈を藤入童[illegible] 岩翁

[illegible]夜の[illegible] 如春

目[illegible]氣[illegible]巾の[illegible]世 [illegible]

[illegible]巾[illegible] 遠乃

炭俵のひとりをあん釜の際 [illegible]

袴[illegible]の草履とる釈心 子堂

つ[illegible]を[illegible]あれ[illegible]の墨 仝

人影や霜月[illegible]富士乃山 其由

竹の畫

竹青く日赤し雪さ墨のくま 素堂

笠重し呉天雪

我雪とおもへとうし笠の上 其角

千鳥はなれ[illegible]仲中乃[illegible] 松風

6505
36. 3. 14

山列車ゆきかよ

ゆきとはへ見よしの猿を不二の雪　智月

雪うと軒炭の起こせとの問ふ　詞山

雪都なる秋楽男の神あれ　柴雪

走れ雪色こそくれなるの友　野徑

ゆきをる節雪ゆり人ゆ夕日うゆ　孚先

世中をいとよまてこそかうあ

小形版ゆきなんん年の暮　其角

元禄辛未歳内立春日筆納往而堂燈下